



Title	黒澤満教授近影・巻頭の辞
Author(s)	床谷, 文雄
Citation	国際公共政策研究. 2008, 13(1)
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/9250">https://hdl.handle.net/11094/9250</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



黒澤 満 教授

## 巻 頭 の 辞

黒澤満教授の定年ご退職を記念し、また国際公共政策研究科関係者一同の黒澤先生への感謝と惜別の思いを込めて、ここに『国際公共政策研究』第13巻第1号を黒澤満教授退職記念号として刊行することになりました。

黒澤満先生は、昭和42（1967）年3月に大阪大学文学部を、同44（1969）年3月に大阪大学法学部をそれぞれ卒業され、同46（1971）年3月に大阪大学大学院法学研究科修士課程を修了し、同51（1976）年3月に同博士課程を単位取得退学されました。昭和51（1976）年10月に新潟大学人文学部に講師として赴任され、昭和53（1978）年7月に同大学法学部助教授、同59（1984）年10月法学部教授を経て、平成3（1991）年4月に大阪大学法学部教授に就任し、同5（1993）年7月に博士（法学）の学位を取得されました。そして平成6（1994）年6月の大阪大学大学院国際公共政策研究科の創設にともない、同研究科教授となり、平成20（2008）年3月31日をもって定年退職されました。

黒澤教授のご専門は国際法であり、特に軍縮国際法という国際法学の新たな分野を開拓し、確立した先駆者として知られ、現在もなお学界をリードされている。黒澤教授の業績につきましては巻末の主要著作目録をご覧くださいですが、①軍縮問題全体を取り扱うもの、②核軍縮を取り扱うもの、③核不拡散を取り扱うものに大別することができる。①には、『軍縮国際法の新しい視座—核兵器不拡散体制の研究—』（1986年）、『軍縮国際法』（2003年）、『大量破壊兵器の軍縮論』（2004年）などがあり、軍縮国際法の形成と展開、その特徴などを論じ、軍縮国際法の体系を明らかにされている。②には、『核軍縮と国際法』（1992年）、『核軍縮と国際平和』（1999年）、*Nuclear Disarmament in the Twenty-first Century*（2004年）、などがある。核軍縮は、軍縮問題のなかでも特に人類の生存と存続にかかわる問題であり、黒澤教授はこれを早くから重要視し、精力的に取り組んでこられた。③には、「核兵器国と非核兵器国の義務のバランス」（1978年）、『軍縮国際法の新しい視座』（1986年）、「核不拡散体制の新たな展開」（2001年）、「核不拡散体制の新たな展開とその意義」（2006年）などがある。核軍縮と核不拡散は、核による人類の生存と存続の危険の低減化に資する措置であること、核軍縮措置と核不拡散措置が連動する側面があることなどで共通点がある一方で、核軍縮以上に安全保障の分野と関連する要素も多い。核軍縮に取り組み、安全保障にも造詣の深い黒澤教授ならではの業績である。

黒澤教授には多数の英文論文があり、軍縮国際法分野における世界の国際法学及び国際政治・国際関係学にも多大な貢献をされた。とりわけ、Moving Beyond the Debate on a Nu-

clear Japan（2004年）は、その後の英文論文においても多く引用されている。また、黒澤教授は、軍縮に関する一般書や入門書を著すことによって、この分野の一般への普及を進めてきた。『軍縮をどう進めるか』（2001年）は大阪大学出版会から出版されたものであり、本学の社会貢献において重要な意味をもつものである。

学外、学会活動としては、黒澤教授は、世界法学会理事、日本平和学会理事、国際法学会評議員、国際政治学会評議員をつとめるなど、専門学会の組織運営に貢献されたほか、平成12（2000）年及び17（2005）年の核不拡散条約再検討会議（ニューヨーク）に、政府代表団顧問として外務省から派遣され、また科学技術庁参与（長官指名）、原子力委員会専門委員（内閣総理大臣指名）、原子力委員会参与（内閣総理大臣指名）などもつとめられてきた。さらには、広島平和研究所特別研究員及び長崎市平和推進委員会委員となるなど、民間の核廃絶運動などにも多大な貢献をされている。

学内では、黒澤教授は、独立大学院としての国際公共政策研究科の創設（1994年）と発展に尽力されてきた。大阪大学法学部教授として、川島慶雄教授（初代研究科長）を補佐し、研究科の設置に向けて多大の尽力をされたとともに、平成10（1998）年4月から12（2000）年3月まで第3代研究科長をつとめ、研究科の基盤整備と発展に寄与された。平成11（1999）年には、国際公共政策研究科棟の竣工と創立5周年記念祝賀行事を執り行った。

黒澤教授は、テニスとスキーを趣味とされていて、日々練習、実戦を欠かすことがなく、ゼミの学生にも、決して負けることがないと豪語されている（若干の例外はあるようだが・・・）。研究科内では、テイコク（定刻）主義で知られており、会議の運営はもちろん、授業も、また原稿も遅れたことがない、という驚異的な能力を発揮された。

黒澤先生は、大阪女子大学教授として現在もご活躍中です。先生が新しい職場においても、ますますお元気でその力を発揮され、ご活躍されることを祈念するとともに、今後とも、国際公共政策研究科の後進のご指導を賜りますよう心から願います次第です。

平成20年5月

大阪大学大学院国際公共政策研究科長

床 谷 文 雄